

# 公認心理師国家資格試験対策システムによる 基礎力養成法開発の試み (2)

○水師葉月・宗田直子・大杉朱美・日下部典子  
(福山大学人間文化学部)

## 研究の目的

公認心理師育成のため、公認心理師国家資格試験対策が必要であることは、養成に関わる者であれば誰もが知る事実であろう。しかし、現状はその対策を学生自身の学習意欲や学習方法に任せていることが多く、大学としての学習支援は不足していると言わざるを得ない。そこで本学では、基礎力養成法の開発プロジェクトとして、大学院生を対象とした効果的な試験対策の検討を進めている。

ここでは、昨今のデジタル化社会において効果的な学習教材であると注目されているドリル型 CAI (Computer Assisted Instruction) を用い、本学が導入している eラーニングシステム「セレッソ」を利用した学習教材を作成することとした。ドリル型 CAI とは、行動主義的な学習観に基づき開発された教材である (池田, 1999)。本研究では、ドリル型 CAI の実施回数が問題正答率を向上させるかを検討した。

## 方法

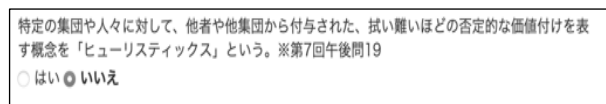
**公認心理師試験ドリルの開発** セレッソの小テスト機能を用い、試験過去問を参考にした問題プールを 115 問用意した。実際のドリルでは問題プールからランダムに 30 問出題した。1 問の配点は 1 点であり、30 点満点とした。画面上に問題と回答の選択肢 (2 択) が提示され (Figure 1)、利用者が 30 問回答して提出すると、正解のフィードバックと全体の正解率、解説を提示した。

**効果検証の対象者** 大学院生 12 名。

**効果検証の方法** ドリルの 1 回目と 2 回目の成績 (正答率) を比較した。

**倫理的配慮** 本報告は、福山大学研究安全倫理委員会の審査を受け、承認された (2024-H-50 号)。

Figure 1. 出題・回答画面の例



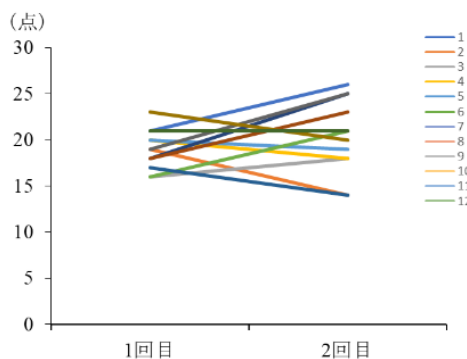
## 結果と考察

**公認心理師試験ドリルへの評価** 「手軽に勉強する機会を与えてもらえる」とのポジティブな感想があった。一方で、解説ボタンに気づかず、解説のページにたどり着かない学生が一定数存在したことは課題として残された。セレッソの構造上、機能が限られているため、今後は PsychoPy 等の心理学実験用アプリケーションを応用し、より効率的な反復学習を可能とするドリル作成を目指す。

**効果検証** ドリルの実施回数がドリルの成績に影響しているのかを検討した。1 回目よりも 2 回目の成績が上がった学生は 12 名中 6 名だった。1 回目と 2 回目のドリル成績の変化 (Figure 2) を検討するために *t* 検定を行った結果、有意差はなかった ( $t(11) = -1.11, p = .29, g = -0.42, 95\%CI[-1.29, 0.45]$ )。成績が下がった学生には、普段勉強する機会が少なく苦手意識のある司法・犯罪や統計分野のつまずきが見られた。自分のつまずきや習得していない問題を把握できることは、個別最適化された学びに有効であり (中村他, 2022)、本ドリルの利点であると思われる。

本研究は短期間での効果検証となったため、今後は長期間での変化を調査する必要がある。今後もドリルで量的なアプローチ、勉強会で質的なアプローチを行い、相乗的な基礎力の養成を目指したい。

Figure 2. ドリルの実施回数による成績の変化



※ 本研究は、令和 6 年度教育振興助成金「特色ある教育方法開発助成金」の助成を受けた。